

大阪と上海における幼児のしつけに関する研究（２）

－ 就労母親の特性（大阪の調査結果） －

○吉田洋子（常盤会短大）、岩堂美智子（大阪市大）、岡 佐智子（大谷女子大）、国家順子（大阪青山女子短大）、坂上優子（大阪成蹊女子短大）、早川 淳（大阪市大）

Ⅰ・研究目的： 本報告では、母親の就労の有無、また、就労母親の勤務形態（常勤と常勤以外）の違いが、子どもへのしつけや、母親自身の生活態度・理想とする子供像などに、どのような差を生み出すかを調べたものである。

Ⅱ方法および対象（対象群の特性）： 方法および対象は研究１と同様である。回答者のうち、仕事を持たない母親（専業主婦群）が５２９人、有職の母親（就労群）４６６人（常勤群１０９人、常勤以外群３５７人）である。常勤群は、教員・技術職など専門職（３８％）や官公庁・公共企業など事務職（３４％）が全体の７２％を占める。一方、常勤以外では自営業（２

６％）、工員や店員の企業労働者（１９％）、その他であった。常勤群は、専業主婦群に比べ、一人っ子、祖母同居群が有意に高く、また、４０才以上の母親の率や、父親がいない（１８％）率も高かった。

Ⅲ結果および考察**１．子供のしつけの実態**

子供へのしつけに関しては、各グループ間で大きな差は見られなかったが、２５の質問のうち、統計的に有意な差がみられた５項目を表１に示す。早寝早起きは、専業主婦の方がよく言っているが、紙屑のポイ捨てや落書きなどに関しては、就労群の方がよく注意している。また、友達とあそぶ時、玩具の譲り合いや集

表１ 幼児のしつけと母親の生活態度

	番号	質問事項	専業主婦 (529人)		母親就労 (466人)		有意差	就労母親常勤 (109人)		就労母親常勤以外 (357人)		有意差
親の生活態度	②	早寝早起き	I 351	66%	275	59%	*	61	56%	214	60%	
	⑤	紙屑のポイ捨て	I 278	53	280	60	*	63	58	217	61	
	⑦	無断で他人物不使用	I 265	50	230	50		44	40	186	52	*
	⑨	譲り合い順番（友達と遊ぶ）	II 149	28	162	35	*	38	35	124	35	
	⑫	集団で遊ぶ（友達）	III 144	27	160	34	*	43	39	117	33	
親の生活態度	②	物を大切に	I 394	74	317	68	*	74	68	243	68	
	③	規則正しい生活	I 321	61	246	53	*	57	52	189	53	
	④	整理・整頓	I 348	66	261	56	**	60	55	201	56	
	⑤	清潔・衛生	I 450	85	369	79	*	94	86	275	77	
	⑧	乗物で順番、席を譲る	I 481	91	406	87		99	91	307	86	
	⑨	交通ルール	I 447	84	351	75	***	78	72	278	78	
	⑩	動物・植物を大切に	I 430	81	362	78		78	72	298	81	*
	⑭	子供への約束を守る	I 374	71	287	62	**	76	70	215	60	
	⑮	子供を殴ったりののしらない	I 117	21	95	20		31	28	64	18	*
	⑯	子供の教育（夫婦一致）	I 355	67	283	61	*	64	59	219	61	
	⑲	我慢強く質問に回答	I 244	46	208	45		61	56	157	44	*
	㉑	地域活動に参加	I 187	35	132	28	*	25	23	107	30	

しつけの実際の回答

- I いつも（言い聞かせている）
 II 時々（言い聞かせている）
 III 特に注意しない
 IV まだ幼児なので注意しない
 V もうできている

親の生活態度の回答

- I そうしている
 II したいと思っているがあまりできていない
 III しない

有意差

- * $P < 0.05$
 ** $P < 0.01$
 *** $P < 0.001$

表2 子供の将来像（理想像）

	順位	専業主婦 (529人)		母親就労 (466人)		就労母親 常勤(109人)		就労母親 常勤以外(357人)	
第1位	1	①	211人 40%	①	180人 39%	①	46人 42%	①	134人 38%
	2	⑦	90 17	⑦	92 20	⑦	22 20	⑦	70 20
	3	②	38 7	③	36 8	③	14 13	④	27 8
	4	③	37 7	④	31 7	⑪	5 5	③	22 6
	5	⑬	28 5	⑬	22 5	⑬	5 5	⑬	20 6
5つ選んだ中で最も多い項目	1	⑦	389 74	⑦	343 74	⑦	83 76	⑦	260 73
	2	①	294 56	①	252 54	①	65 60	①	187 52
	3	⑬	254 48	⑬	220 47	⑬	52 48	⑬	168 47
	4	⑪	206 39	⑪	174 37	③	50 46	⑪	140 39
	5	④	194 37	④	173 37	④	41 38	④	132 37
	6	③	171 32	③	163 35	⑪	34 31	③	113 32
	7	⑬	122 23	⑬	122 26	⑬	32 29	⑬	90 25

質問番号と内容

- ① 生命を大切に人
 ② 礼儀正しい人
 ③ 自分なりの考えを持ち、最後まで実行する人
 ④ 希望や目標を持ち、それにむけて努力する人
 ⑦ 人を思いやる気持ちを持つ人
 ⑩ 責任をもって、真面目に仕事をする人
 ⑪ 家族を大切に人
 ⑬ 人に偏見を持たず、信頼しあい、助けあえる人
 ⑮ 善悪の判断できる人
 ⑯ 自立して生活する人
 ⑳ 生きがいのもてる仕事につき、趣味を持った生活をする人

団遊びをするよう促すのは、専業主婦群に高い。これは就労群の子供は昼間保育所に通っていることに起因するのかもしれない。

就労群間の比較で、⑦「無断で他人の物を使わないよう言う」に有意な差が見られ、常勤以外群が常勤群に比べ、よく注意していたが、他の項目では有意な差は認められなかった。

2. 親自身の生活態度

親自身の生活態度に関しては、2・3項目のすべての項目で専業主婦群が就労群に比べ、「そうしている」の回答が多く、逆に就労群は「したいと思っているができていない」の回答が多かった。自分自身については、専業主婦の方が、子供にしたい行為が出来ていると感じている者が多いことを示す。また、②物を大切に③規則正しい生活④整理・整頓⑤清潔・衛生⑧乗り物で順番・席を譲る⑨交通ルール⑭子供への約束を守る⑯子供の教育、夫婦で一致⑰地域活動に参加に有意差が見られた。

常勤以外群の親の態度は、専業主婦群と近いが、あるいは、専業主婦群と常勤群の中間的な率を示すものが多かった。しかし、統計的に有意な差を見たのは、⑩動植物を大切に人①項目のみである。一方、数的には少ないが、常勤群の母が心がけている項目は、①偏食⑤清潔・衛生⑧乗り物（順番、席を譲る）

⑭子供と約束を守る⑮子供を殴ったり、ののしらない、我慢強く教育⑯子供の教育、夫婦で一致⑰子供の質問に我慢強く回答等の項目である。⑮や⑯については常勤群が専業主婦群に比べて有意に高い結果を示した。

3. 子供の将来像（理想像）

「将来どのような人になって欲しいか」の質問に（20項目中5つ選択）し、重要と思う順に列記した項目で第1位として選択したもの、及び5つ選択した中で各項目が選択された率の高い項目を上位より並べたのが表2である。上位に上がった項目①生命を大切に人⑦人を思いやる気持ちを持つ人⑮善意の判断のできる人等に関して各群間に差がなく、下位項目に各群の特徴が出現した。例えば、専業主婦群では、①、⑦について②父母を尊敬し礼儀正しい人があり、就労群では③自分なりの考えをもち、正しいと思うことを最後まで実行する人をあげた。全項目中、③のみが群間で有意な差が見られ、常勤群が常勤以外群、専業主婦群に比し、選択した率が高かった。一方、⑩責任を持って、真面目に仕事をする人（専業主婦群21% 常勤群13% 常勤以外群21%）は、常勤群が低く、⑳生きがいのもてる仕事につき、趣味を持った生活（専業主婦群23% 常勤群29% 常勤以外群25%）は、逆に常勤群が多く選択していた。